

新日本

シネスコ版

道新 1657
高新 16136

手編同

No. 301

34.10.23

名乗りでた「西尾新党」

(VJor)

十月十六日社会党の再開大会当日、西尾さんのけん責処分に怒った再建同志会は大会をボイコットし、全労を中心として、分裂もやむなしと態度を決めました。やつと蓋を開けた大会も西尾、河上両派が姿を見せず、まる二日間を空費、百円温泉にたてこもった河上派は完全野党の看板もどこへやら、よろめきつつけ、あげくの果てには西尾派と手を切つて大会に参加しました。

かくて、西尾派は筋書きど通りに新党結成へと踏切り、ここに社会党は左右の統一から四年ぶりに、分裂の事態をみました。西尾新党の行方はさまざまな波紋を呼びそうです。

トラピストの晩秋

ここは北海道湯の川女子修道院です。秋の実りは神の恵みと言われています。また、男子修道院にも厳しい戒律の生活がみられます。やがて、雪に埋もれる毎日がやつて来るのです。

二人の校長先生

東京

東京の細船小学校に、二人の校長先生が生まれました。「教育者としての良心が許しません」と勤務評定の提出を拒んだこの校長伊藤先生を教育委員会が首切り処分したのがこの問題の発端。伊藤先生は白黒が法廷で決るまでは校長はやめぬと処分の辞令を拒否すれば、新しい校長の滝山先生はこれ又「都教組がいくら押しかけようと、校長の就任は引受けません」と大変ないきおいです。東京の勤評問題はこの二人の先生を中心に波乱を続けて行くようです。

日本の群像

輪中の人びと

(102)

三重

伊勢湾台風が去つて一ヶ月。いまだに地肌を見せぬここ三重県木曾崎村は、別の名を輪中と呼び、その歴史は平安時代にさかのぼる。

まわりを囲まれたこの地方の人々の歴史は、常に洪水との闘いにあつたのである。くり返す悲劇の中で、やがて寒さを迎えようとしている。暗い灯をたよりに屋根裏住い、が続き、婚約者を失つた若者は秋の夜長を淋しく過す。人々は新しい村造りへ会合を開くが、何と言つても痛いのは、すでに受取つた供出米の前渡金を返すことである。

また、木曾崎だけでも三百人の犠牲者を出した。このように、その歴史は華かな日は一日としてなく、日本の農業の縮図ともいえるのである。

242

270

148

105

217